



つなぎ つむぐ

☆☆☆☆☆☆☆☆ 「えべつ型コミュニティ・スクール」

令和7年3月18日

第55号

江別市教育委員会

総務課・学校教育課

各種の取組や成果・課題を共有し、次年度へ ～第2回小中一貫教育担当者会議開催～

2月6日（木）に市内各校の小中一貫教育担当者が集まり、今年度2回目の情報交流や研修を行いました。冒頭、黒川淳司教育長から、各中学校区の特色ある取組の推進と着実な成果をあげていることに対して、担当の先生方へ感謝と労いの言葉がありました。

次に、学校教育係長から、12月に実施した各中学校へのヒアリング結果や各中学校区のチェックリスト等から明らかになった「令和6年度の取組の成果・課題と令和7年度の取組について」が提示され、全体で共有しました。

その後の交流・協議では、大麻東中学校区が今年度の小中一貫教育の取組をもとに、「小中一貫教育の日常化」や「協働体制の確立」に関する実践を発表しました。

具体的な内容としては、

- ① 大麻東小と大麻泉小合同の中学校登校の実施(改善した取組)
- ② 小学4年中学1年合同の体力づくりの授業実践(新規の取組)
- ③ 各教科の中学校区重点項目等を題材一覧表にも反映させた「系統的な指導」の日常化(新規の取組)
- ④ 発達段階に応じた4段階のスタンダードによる小中9年間の「一貫した指導」の実践と中学校区内でのスタンダードの掲示方法の統一による保護者・地域への情報発信(改善した取組)
- ⑤ 石狩教育局による学校教育指導への相互授業参観及び事後研修会への参加(継続・充実した取組)
- ⑥ 校長間、教頭間、担当者間の連携及び合同研修会・全体会議と部会運営による協働体制の確立(継続・充実した取組)
- ⑦ 事務局校の中学校固定と各校が2年間部長を継続する推進体制を構築し、「小中一貫教育の日常化」と「事務局校の負担軽減・業務の平準化」の推進(改善した取組)

等で、他の中学校区にとって参考となる実践がたくさんありました。

また、中央中学校区が昨年9月27日（金）、28日（土）に広島県府中市で開催された「小中一貫教育全国サミット in びんご府中」についての研修報告を行いました。府中市では、平成



挨拶する黒川淳司教育長



教育委員会から成果・課題の説明



大麻東中学校区の発表



中央中学校区の研修報告

20年から小中一貫教育が導入され、2つの施設一体型の義務教育学校と2つの併設型小中一貫校の計4つの学園が小中一貫教育を進めており、先進的な取組や江別と同様の取組が行われていることについての発表がありました。配布資料とプレゼンテーション資料の両方を準備し、参考となる事例や取組がよくわかる研修報告でした。

最後に、中学校区ごとに集まり、今年度のまとめや次年度に向けて、熱心に協議を行いました。各校の担当者の方々の1年間の精力的な取組に心から敬意と感謝を表します。



第一・第三中学校区の協議



大麻中学校区の協議



野幌中学校区の協議

学校評価の内容や改善策について熟議

～学校運営委員会で学校関係者評価を実施～

1月以降、各校の学校運営委員会で学校評価の内容や改善策について協議する学校関係者評価が行われました。市内の小中学校では、児童生徒アンケートや保護者アンケートを実施し、それらの結果も踏まえて職員による自己評価を行っています。さらに、その結果を学校運営委員の方々に示して意見等をもらい、次年度の学校経営や教育活動に生かす取組を進めています。

今年度の学校関係者評価における学校運営委員の意見（一部抜粋）

【教育課程・学習指導】

○ICTも大切だが大切なものを見失ってはいけないとも思う。ICTと両面でいけると素晴らしいと思う。

【生徒指導】

○大人も子どももネットによる被害が後を絶たず、胸を痛めている。いじめ問題をはじめ、ネットによる誤った情報の見極めは常に学んでいかなければならないと思う。そして、コツコツ働くことの小さな幸せを感じることでできる人に育ってほしいと常に思っている。

【学校と家庭・地域との連携】

○読書や体力づくりについて学校での実態と家庭での実態が離れていることが明らかになった。学校教育と家庭教育の連携については今後も考えていかなければならない。

【今日的な教育課題】

○働き方改革については、過去のやり方、在り方にとらわれず、「選択と集中」をもって改善していただきたい。やってみないと分からない部分はあるかと思うが、チャレンジしてほしい。生徒の成長を促し、教員の働き方改革が改善されることを願う。



上江別小 学校運営委員会



第二中校区 学校運営委員会